

新しい認知症観

認知症になったら何もできなくなるのではなく、
認知症になってからも、
一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、
住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、
希望を持って自分らしく暮らし続けることができる
という考え方です。

みなさんも『新しい認知症観』について
考えてみてください。

古い認知症観

(他人ごと、問題重視、疎外、絶望)

- ①他人ごと、目をそらす、先送り
- ②認知症だと何もわからない、できなくなる
- ③本人は話せない/声を聞かない
- ④おかしい言動で周りが困る
社会の負担
- ⑤危険重視
- ⑥周囲が決める
- ⑦本人は支援される一方
- ⑧認知症は恥ずかしい、隠す
- ⑨地域で暮らすのは無理
- ⑩暗い、萎縮、あきらめ、絶望的

新しい認知症観

(わがこと、可能性重視、ともに、希望)

- ①わがこと、向き合う、備える
- ②わかること、できることは豊富にある
- ③本人は声(サイン)を出せる/声を聴く
- ④本人が認知症バリアの中で一番困っている
バリアをなくし、暮らしやすい地域を創る先駆け
- ⑤あたりまえのこと(人権)重視
- ⑥本人が決める(決められるような支援)
- ⑦本人は支え手でもある。「ともに」ある、
支え合う
- ⑧認知症でも自分は自分、オープンに
- ⑨地域の一員として暮らし、活躍
- ⑩楽しい、のびのび、あきらめず、希望を

新しい認知症観を広げるため、活躍する認知症のご本人動画と
認知症のご本人とご家族からのメッセージ動画を制作しました。
二次元コードから是非ご覧ください。

活躍する認知症の
ご本人の動画

「YouTube」で公開中!



認知症とともに生きる



認知症の人が活躍する場編
ロングインタビュー版

— 制作：仙台市地域包括ケア推進課 —

協力：東北福祉大学・東北工業大学の学生ボランティアのみなさん

ご本人からのメッセージ

「認知症になってもみんな同じ」
「遠慮しないで普通に話して笑い合いたい」
「このメンバーで誰かのためにはたらくことが好き」
「仲間と生活の工夫を学び合える場がある」
「認知症になってもあきらめずに挑戦してほしい」
「仲間と一緒に歌うのは楽しい」

ロングインタビュー版



ダイジェスト版



認知症サポーター
養成講座で
『想いを伝える』

草むしり
などをして
『はたらく』

仲間たちと
集まって
『知恵を出し合う』

ノルディック
ウォーク
講師として
『得意なことを
活かす』

合唱団で
『仲間たちと歌う』

ご本人からのメッセージ

「できることは自分でしたい」
「ゆっくりと見守ってほしい」

ご家族からのメッセージ

「人とのつながりを大切に」
「ひとりで悩まずかかえこまずつながれば必ずアドバイスをもらえる」

認知症のご本人と
ご家族の等身大の想いと
日々希望を持って生きる姿を
インタビュー形式で
映しました。

認知症のご本人
からの
メッセージ動画



認知症の人の
ご家族からの
メッセージ動画



認知症のご本人・ご家族・
制作に関わった学生からの
メッセージ動画



作成：仙台市地域包括ケア推進課・動画制作ワーキンググループ

せんだいTube 認知症

検索



仙台市健康福祉局 地域包括ケア推進課
(仙台市青葉区国分町 3-7-1 本庁舎 6 階)

認知症とともに笑顔で生きる